令和7年度　事業所における自己評価総括表（公表）

児 童 発 達 支 援

○事業所名	本別町児童発達支援センターよつば			
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日	～	令和8年1月30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	6人	（回答者数）	5人
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日	～	令和8年2月13日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4人	（回答者数）	4人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1対1の個別療育のため、それぞれの児童に合わせた課題を設定し支援を行うことができている。 各年齢別で年に3回ずつのグループ療育を行い、小集団、異年齢の関わりの機会も設けている。	着席して行う療育と、体を動かして行う療育をバランスよく組み立てて活動を行っている。 グループ療育では、他者と楽しみながら活動できる場として、活動内容を検討し行っている。	個別療育で身に付けたものを実践できる場として、グループ療育の回数や内容を検討していく。
2	外部機関の言語聴覚士、理学療法士、作業療法士には、子どもの様子を観察してもらい、療育内容のアドバイスをもらっている。心理士には、利用者からの相談や心理検査を実施してもらうことで、児童の困りや課題を具体的に把握することができている。	専門職には、継続的な関わりを持ってもらうことで、療育や相談での効果の検証を行うことができている。	専門職を利用することで、その効果が生活全体に活かされるよう、保護者に具体的に伝えていく。
3	職員数が少ないことは事業所の弱みでもあるが、職員全員で顔を合わせる時間も多く、利用者について十分なコミュニケーションも取ることができている。また、他部署とも連携を図ることができている。	療育内容や新しい情報を常に話し合うことで、担当以外の児童についても現状を把握することができている。他部署とも情報共有することで、支援の役割分担をすることができている。	情報共有だけではなく、児童一人一人を深く分析して療育内容を設定できるよう、事例の検討を定期的に行い、職員のスキルアップにもつなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	茶話会や、ペアレントメンターによる懇話会を開催しているが、参加者が少なく、日程の調整に苦慮している。	多くの保護者が集まれる日程の設定が難しい。行事が魅力あるものになっていないのも課題。	保護者が気軽に集まって話ができる行事の他に、講演会など、保護者が必要としている情報の提供ができる場を検討していく。
2			
3			